

第3回

秋岡芳夫が提唱する人とモノのいい関係

低座の暮らしとニッポンの食卓展

展示販売
+
体験体感会

開催期間：2024年11月16日(土)～12月15日(日)



「家具は身体と暮らしで選ぼう」

器を手で持って食事をし、靴を脱いで暮らす日本人には、欧米とは異なる家具の規格サイズがあるのではないだろうか。そんな考えから生まれた、低めの食卓と幅広のダイニングチェアをセレクトしました。こたつに在るような、ほっこりとした居心地のよさを体験してみませんか。

11/24(日)
14時～

■ ギャラリートーク

ハンドショッピングのすすめ
～食器と家具の買い方・選び方

定員／10名程度(予約制)
参加費／無料
講師／菅村大全氏



消費社会にいち早く警鐘を鳴らし、生活文化の見直しを説いた工業デザイナー、秋岡芳夫。彼が残した数多くのメッセージの中から、身体尺度(ヒューマンスケール)にもとづいたモノ選びのコツをご紹介します。

12/8(日)
11時～
15時～

■ ワークショップ

杉の木を使ってつくる
筋交いが効いた2WAY スツール

定員／各5名(予約制) 道具不要
参加費／税込15,000円 ※材料費込
講師／戸高晋輔氏



九重町の工房「TODAKA WOOD STUDIO」‘暮らしの中の木の道具’を制作。長く身近に置いて愛用されるもの、生活に寄り添うもの等の観点から生活スタイルを提案。今回は好評だったスツール製作です。

12/14(土)
13時～
16時頃

■ ワークショップ

半農半陶の暮らし
～小石原焼カネハ窯の飛鉋体験

定員／先着順(当日申込可)
参加費／税込3,300円 ※器は後日
講師／熊谷裕介氏 お渡し



熊谷裕介 カネハ窯三代目 国指定伝統工芸士 福岡県東峰村小石原地区で350年の歴史を誇る「小石原焼」の伝統工芸士による飛鉋体験です。伝統技法「飛鉋(とびかん)」を使って自分だけの器を作ることが出来ます。

■各イベントのお申し込みはホームページ、又はお電話、FAXで受付中です。定員になり次第、締め切らせていただきます。お席に限りがありますので、お早めにお申し込みください。



U-house ing 有限会社 ユーハウス・イング
INFORMATION NETWORK GALLERY

〒815-0037 福岡県福岡市南区玉川町5-6
TEL:092(554)8700 FAX:092(554)9900
open11:00-closed18:00 定休日：水曜
<https://u-house.net/> ☒info@u-house.net

詳しくは
ホームページ
やインスタグ
ラムで



Instagram

低座の暮らし

【一机多用】という暮らし方

ダイニングテーブルを食事だけではなく、くつろぎのスペースとしても活用できる。日本人に合った家具を紹介します。



© 森茂宏

秋岡芳夫 Yoshio Akioka

1920年熊本県宇城市生まれ。東京高等工芸学校卒業。1953年にデザイン事務所 KAK を設立。消費社会の到来にいち早く警告を発し“立ち止まったデザイナー”を名乗る。暮らしのデザイン、工作人間、裏作工芸、工房住宅といった持論を展開し、日本各地で手仕事を通じた地域再生に尽力した。東北工業大学工学部教授、共立女子大学生生活美術学科教授を歴任。1997年没。



© 秋岡陽／
目黒区美術館

豊口克平 Kappei Toyoguchi

1905年秋田県鹿角市生まれ。東京高等工芸学校卒業。1928年にバウハウスの理念に基づいたデザイン研究団体「形而工房」を結成、量産向けの家具作品を発表する。1933～59年まで商工省工芸指導所に勤務。1959年に豊口デザイン研究室を開設。その後、桑沢デザイン研究所、武蔵野美術大学教授、日本インダストリアルデザイナー協会理事など歴任。1991年没。



靴を脱ぎ、
器を手にとって食事するのが
日本人の暮らし方だから――。
低めのテーブルにあぐら胡坐がかける椅子、
日本人のために作られた
居心地の良い家具を
実際に手に取ってお試してください。

